

世田谷クリーン通信



夕方はめっきり涼しくなり、空も高く感じられます。

さて、先月第7号で“3dayセミナー”の予告をいたしました。その後、講師の方々等との打ち合わせの結果、別添のとおりチラシを作成しましたので、改めてご確認ください。

日時・場所と構成に変わりはありませんが、みなさまにご参加いただくディスカッションの内容に変更があります。予告では、主に「食品ロス・食品廃棄物」と「容器包装」をテーマに意見交換を行う予定としていましたが、参加者の業種が多彩なこともあり、すべての方がご自身の考えを述べられるよう修正しました。

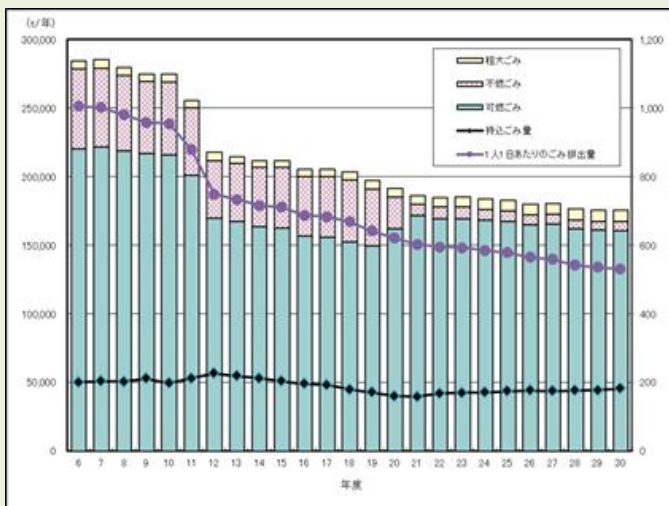
ズバリ！「SDGs」を身近に引き寄せて考えてみます。たとえば、外食や食品小売りの場合、完全食を促す工夫や廃棄分が出た場合の資源化や未利用食品の地域循環など、これらはSDGsの①貧困⑫つくる責任・つかう責任⑮陸上資源などにつながる、というように、何らかのつながりがあります。そして、先進事例を聴き、同じ課題を持つ人がみつければ、一人ではできないことができるかもしれません。

金曜午後の2時間、ぜひとも足をお運びください。きっと、来てよかった！と思ってくださることと思います。なお、チラシにはFAX申込となっておりますが、通信読者のみなさまにおかれましては、メールでお申込みいただいても構いません。お申込みをお待ちしています。

特集「世田谷区の廃棄物の現状」



(1) 平成30年度ごみ量実績



世田谷区の平成30年度の一般廃棄物の処理量は220,863トンで、うち家庭ごみ（一部の少量排出事業者のごみを含む）は、人口が約90万人から91万人へと増加しているにもかかわらず、減少しています。そのため、左図の上の折れ線グラフが示す1人1日あたりのごみの排出量も減少しています。

一方、下の折れ線グラフが示す事業系ごみ（事業者が処理施設へ持込むごみ）は、平成22年度以降増加傾向にあり、平成30年度も、前年度より増加しています。

ごみの総量は、前年度に比べて、約700トン（220,132トン→220,863トン）増えています。

分類別に見ると、家庭ごみは、約170トンの減少（175,890トン→175,717トン）となっておりますが、事業系ごみが、約900トンの増加（44,242トン→45,146トン）となっているため、全体として増加となっております。

事業系ごみの割合は、例年と変わらず、全体のおよそ2割となっております。

世田谷区の一般廃棄物の排出量



平成30年度 ごみの総量 220,863t

(2) 大規模事業者から報告された再利用計画書のまとめ

※ここでの再利用率とはリサイクル量のことです。また、データは585者分をまとめた、現時点での暫定値です。

再利用計画書のまとめ①

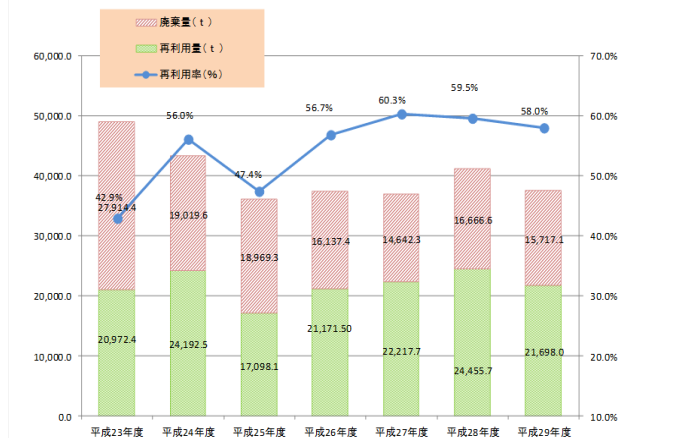


図1. 平成29年度までの再利用率、廃棄量及び再利用率(単位:トン)

平成29年度では、全体の発生量は4万トン弱であり、割合的には、廃棄量より再利用率の方が少し多く、再利用率は58%でした。なお、これは平成29年度までの集計ですので、それまでの対象であった、**3000㎡以上の事業所の方のみ**計上しております。

再利用計画書のまとめ③

表1. 品目別の発生量、再利用率及び廃棄量

| 品目 | 発生量 | 再利用率 | 廃棄量 | 再利用率 |
|-----------|----------|----------|----------|-------|
| コピー用紙 | 1672.82 | 1295.52 | 377.30 | 77.4% |
| シュレッダー | 1274.00 | 1245.98 | 28.02 | 97.8% |
| 新聞紙など | 1082.24 | 1059.13 | 23.11 | 97.9% |
| 段ボール | 9703.52 | 9678.82 | 24.70 | 99.7% |
| その他の紙類 | 7350.35 | 2463.31 | 4887.04 | 33.5% |
| 厨芥 | 8070.90 | 2056.01 | 6014.89 | 25.5% |
| 剪定枝等 | 2160.90 | 251.34 | 1909.56 | 11.6% |
| その他の一般廃棄物 | 4592.61 | 1792.30 | 2800.31 | 39.0% |
| 飲料用瓶 | 593.35 | 580.13 | 13.22 | 97.8% |
| 飲料用缶 | 1308.61 | 1279.54 | 29.06 | 97.8% |
| ペットボトル | 1110.44 | 1071.91 | 38.53 | 96.5% |
| 食用油 | 407.42 | 383.42 | 24.01 | 94.1% |
| プラスチック等 | 5230.68 | 3844.28 | 1386.41 | 73.5% |
| ガラス等 | 276.04 | 227.32 | 48.72 | 82.4% |
| 金属類 | 1990.65 | 1828.66 | 161.98 | 91.9% |
| その他 | 17615.79 | 11808.54 | 5807.25 | 67.0% |
| 特定の事業 | 221.12 | 151.85 | 69.27 | 68.7% |
| 総合計 | 64661.45 | 41018.06 | 23643.38 | 63.4% |

※端数処理の関係により、合計数は必ずしも一致しません。

多くの品目が、8割近い再利用率である中、特に低いものに注目すると、厨芥と剪定枝等が上げられます。**厨芥は、25.5%、剪定枝等は、11.6%**となっています。

事業系ごみを減量するためには、こうした品目の、**再利用率をさらに向上**させていかなければなりません。

また、**その他一廃や、その他(産廃)の再利用率が低いのは、分別が徹底できていない事業者の方々**が、全て合算した量をここに記載していることも要因の1つです。分別が進めばリサイクルも可能となり、この集計結果もより正確なものとなりますので、さらなる分別の徹底にご協力ください。

編集後記

みなさまからご提出いただいた再利用計画書を集計してみました。1000㎡～3000㎡の方は今回が初めての記入で、ご苦労されたことと思います。数字の把握の仕方が統一されない部分も散見され、今後徐々に、より信憑性の高い数値になるよう指導等に努めます。また、このデータを活用して立入調査等を実施してまいりますので、引き続きご協力のほどお願いいたします。

再利用計画書のまとめ②



図2. 平成30年度の再利用率、廃棄量及び再利用率(単位:トン)

左端の帯は左図と同じく3000㎡以上の事業所の方の分です。中央の帯は、平成30年度から新たに大規模事業所に加わった1000～3000㎡の方の分で、右端は合計値です。

面積別に見ると、再利用率に差があることがわかります。1000～3000㎡の方の再利用率が約77%であるのに対し、3000㎡以上は約56%と、大きく差があります。

全体としては、再利用率は63.4%であり、前年度と比べても高くなっていますが、これは、1000～3000㎡の数値の後押しを受けてのものであることがわかります。

再利用計画書のまとめ④

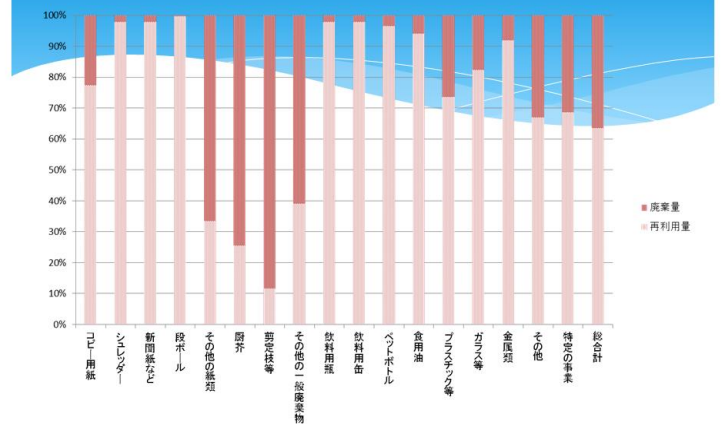


図3. 品目別の廃棄量及び再利用率割合

左表の再利用率をグラフ化したもので、下側が再利用率、上側が廃棄量の割合です。こうして見ると、厨芥や剪定枝等の廃棄量の割合が圧倒的に多いことが一目瞭然と分かります。

分別と計量！ 自身の廃棄物の内容の把握が重要です。